

2014年3月期 第3四半期 決算補足資料

1. 決算概観(連結)
2. 業績のポイント
3. 主な子会社の業績と予想
4. 主要製品の状況
5. 開発品一覧

【参考資料】

6. セグメント情報
7. 業績と予想(連結)

2014年2月4日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



2014年3月期 第3四半期 決算概観(連結)

単位:(百万円)

	11年3月期 第3四半期	12年3月期 第3四半期	13年3月期 第3四半期	14年3月期 第3四半期	前年比	14年3月期 (予想)	前年比
売上高	75,821	77,413	79,229	83,430	+5.3%	112,600	+5.2%
営業利益	11,312	11,668	13,711	13,503	-1.5%	18,200	+1.4%
経常利益	11,848	12,358	14,288	13,961	-2.3%	18,800	+0.7%
当期純利益	7,535	7,227	9,262	9,272	+0.1%	12,400	-0.2%

14年3月期 第3四半期 連結業績(実績)

【売上高】 主力製品の伸長、新製品の発売(ペンタサ坐剤、フルティフォーム)、導出品のロイヤリティ収入の増加、キョーリン製薬グループ工場(株)の売上寄与により新医薬品事業の売上は前年度を上回る実績となりました。また、後発医薬品事業の売上も前年を上回り、売上高は834億30百万円(前年比5.3%増)と増収になりました。

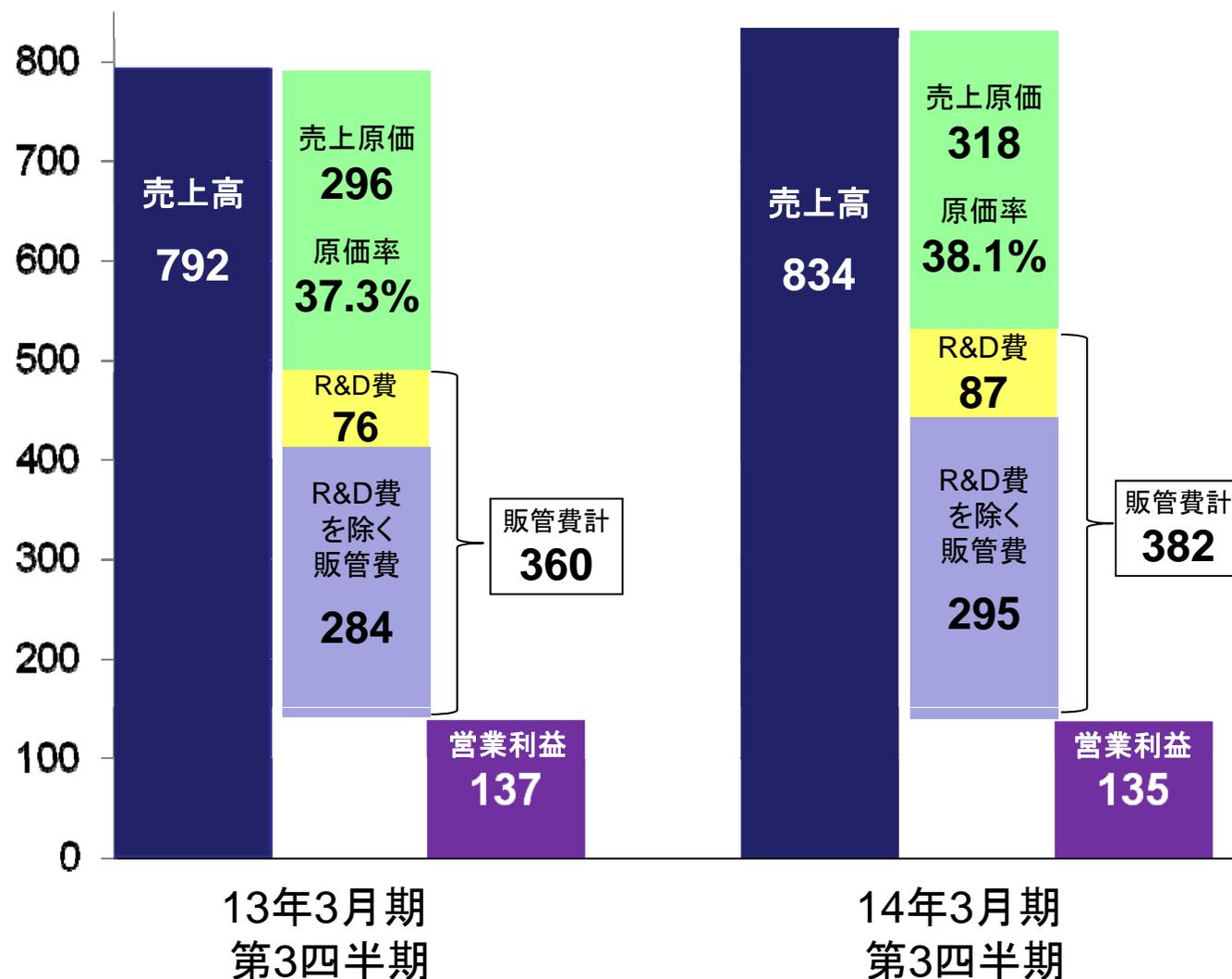
【利益】 売上原価率は前年に対して0.8ポイント上昇したものの、増収により売上総利益は増加しました。他方、販売費及び一般管理費(研究開発費、一般経費等)が前年に対し増加したため、営業利益は135億円(前年比1.5%減)となりました。また、当四半期純利益は93億円(前年比0.1%増)となりました。

14年3月期 連結業績(予想)

【売上高、利益】 売上高および利益の業績予想は、2013年11月5日に公表しました内容を現段階で変更いたしません。
(予想に対する進捗度 売上高:74.1% 営業利益:74.2%)

2014年3月期 第3四半期 業績のポイント

(億円)



ポイント①

◇売上高は前年比42億円増

- ・国内新医薬品、後発医薬品の増加
- ・キョーリン製薬グループ工場(株)の売上寄与
- ・導出品のロイヤリティ収入の増加

ポイント②

◇売上原価率は0.8ポイント上昇
(前年比22億円増)

◇売上総利益は前年比20億円増

ポイント③

◇販管費は前年比22億円増

- ・R&D費は前年比11億円増
- ・販管費(R&D費除く)は11億円増

営業利益は前年比2億円減

2014年3月期 第3四半期 業績の状況

(単位: 億円)

	13年3月期 第3四半期	14年3月期 第3四半期	対前年
売上高	792	834	+42
医薬品事業	778	822	+44
◆新医薬品	668	703	+35
○国内	651	688	+37
○海外	17	14	-3
◆後発医薬品	77	88	+11
◆一般用医薬品他	34	31	-3
ヘルスケア事業 (スキンケア)	14	12	-2
営業利益	137	135	-2
経常利益	143	140	-3
四半期純利益	93	93	0

	対前年
■売上高	834億円 (+42)
◆医薬品事業	822億円 (+44)
●国内新医薬品	688億円 (+37)
13.3(3Q)実績	14.3(3Q)実績
・キプレス	284 ⇒ 296 (+12)
・ムコダイン	146 ⇒ 140 (-6)
・ペンタサ	138 ⇒ 145 (+7)
・ウリトス	57 ⇒ 59 (+2)
・新製品の発売(ペンタサ坐剤、フルティフォーム)、導出品のロイヤリティ収入の増加、キョーリン製薬グループ工場の売上	
●海外新医薬品	14億円 (-3)
・ガチフロキサシン	14 ⇒ 12 (-2)
●後発医薬品	88億円 (+11)
・使用促進策等により卸店ルート(保険調剤薬局)および他社受託生産品の売上の増加	
●一般用医薬品他	31億円 (-3)
◆ヘルスケア事業(スキンケア)	12億円 (-2)
■営業利益	135億円 (-2)
◆営業利益率は16.2%と前年比1.1ポイント低下	
●原価率: 前年比0.8ポイント上昇 (37.3%⇒38.1%)	
【上昇要因】キョーリン製薬グループ工場の影響、為替の影響	
【低下要因】導出品のロイヤリティ収入の増加	
●研究開発費率: 前年比0.9ポイント上昇 (9.5%⇒10.4%)	
* 11億円増加(76億円⇒87億円)	
開発パイプラインの進展(主にKRP-209Ph2a他)	
●販管費率(除くR&D費): 前年比0.5%低下 (35.9%⇒35.4%)	
* 11億円増加(284億円⇒295億円)	
一般経費(特許等使用料、本社移転)、販売費の増加	
■四半期純利益	93億円 (0)

主な子会社の業績と予想

(単位: 億円)

杏林製薬(株)	13年3月期 第3四半期	14年3月期 第3四半期
売上高	713	736
営業利益	132	121
当期純利益	92	86

13年3月期	14年3月期 (予想)
959	995
171	170
119	119

キョーリン リメディオ(株)	13年3月期 第3四半期	14年3月期 第3四半期
売上高	78	91
営業利益	1	5
当期純利益	1	3

13年3月期	14年3月期 (予想)
104	118
4	4
5	2

ドクタープログラム(株)	13年3月期 第3四半期	14年3月期 第3四半期
売上高	14	12
営業利益	-2	1
当期純利益	-2	1

13年3月期	14年3月期 (予想)
19	17
-2	1
-3	1

2014年3月期 第3四半期 主要製品の状況

(単位: 億円)

		第2四半期		第3四半期				通期	
		13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期	13年3月期 第3四半期	14年3月期 第3四半期	対前年 増減率	通期 進捗率	13年3月期	14年3月期 (予想)
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	163	171	284	296	+4.3%	73.5%	396	403
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	83	82	146	140	-3.8%	74.3%	191	188
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	90	94	138	145	+4.9%	78.2%	176	185
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	36	37	57	59	+3.2%	73.8%	75	80
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	15	15	23	22	-2.7%	77.1%	30	29
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	9	10	14	12	-14.2%	66.6%	16	18
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	10	10	16	16	-3.0%	75.8%	20	20

開発品一覧①(2014年2月4日現在)

PhⅢ ~承認

※:前回(2014年3月期 第2四半期 11月5日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
PhⅢ (12年9月)	(欧州) アルミラール社 : 上市(12年9月) (アメリカ) フォレスト社 : 上市(12年12月)	KRP-AB1102 (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	アセチルコリン受容体拮抗作用によりCOPDに伴う呼吸困難、息苦しさなどの諸症状を改善する長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(アクリジニウム) ①全身性副作用が少ない ②1日2回投与により1日を通じて症状、呼吸機能改善 ③最大効果発現までの時間が短い ※吸入器: Genuairを使用	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)
PhⅢ (13年4月)		キプレス (チュアブル錠、 細粒)	気管支喘息治療剤	米国 メルク社	小児: アレルギー性鼻炎	新効能・効果 MSD(株)との共同開発
PhⅢ (13年8月)	(欧州) アルミラール社 : 申請(13年10月) (アメリカ) フォレスト社: PhⅢ	KRP-AB1102F (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA: アクリジニウム)と長時間作用性β2刺激薬(LABA: ホルモテロール)の配合剤	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)

※潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤1g」: 2013年6月発売

※過活動膀胱治療剤「ウリトス」: 2013年7月韓国で発売(鐘根堂)

※喘息治療配合剤「フルティフォーム」: 2013年11月発売

開発品一覧②(2014年2月4日現在)

POCプロジェクト(Ph I ~Ph II)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (11年8月)	Ph III ムツ社	KRP-209	耳鳴	ドイツ ムツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	ムツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph II (13年3月)	Ph II (POC) (10年12月) ハルティス	KRP-203	自己免疫疾患 臓器移植 IBD	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ハルティスとライセンス契約 (06年2月) 新たなライセンス契約 IBD(10年11月)
Ph II (13年9月)		KRP-AM1977X (経口剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	
Ph I (12年7月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社		
Ph I (13年10月)		KRP-EPA605	過活動膀胱治療剤	自社	プロスタグランジンEP1受容体拮抗作用を有し、膀胱の排尿筋過活動を抑制することにより頻尿の改善が期待される	キッセイ薬品工業(株)との共同開発

参考資料

2014年3月期 第3四半期 セグメント情報

報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	834	+42	135	-2
医薬品事業計	822	+44	130	-8
◆新医薬品	703	+35		
○国内	688	+37		
○海外	14	-3		
◆後発医薬品	88	+11		
◆一般用医薬品他	31	-3		
ヘルスケア(スキンケア)事業計	12	-2	1	+3
調整額	-	-	4	+3

(注)「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております

2014年3月期 第3四半期 業績と予想(連結)



(単位:百万円)

	第2四半期		第3四半期					通期	
	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期	13年3月期 第3四半期	14年3月期 第3四半期	対前年 差額	対前年 増減率	通期 進捗率	13年3月期	14年3月期 (予想)
売上高	47,954	50,851	79,229	83,430	+4,200	+5.3%	74.1%	107,031	112,600
医薬品事業	47,034	50,040	77,845	82,223	+4,378	+5.6%	74.1%	105,162	110,900
◆新医薬品	39,684	42,858	66,755	70,276	+3,520	+5.3%	73.9%	90,686	95,100
○国内	38,661	41,697	65,063	68,843	+3,779	+5.8%	74.2%	88,286	92,800
○海外	1,023	1,160	1,691	1,433	-258	-15.3%	62.3%	2,400	2,300
◆後発医薬品	5,056	5,184	7,707	8,806	+1,099	+14.3%	77.3%	10,095	11,400
◆一般用医薬品他	2,292	1,997	3,382	3,140	-242	-7.2%	73.0%	4,379	4,300
ヘルスケア事業 (スキンケア)	920	810	1,383	1,206	-177	-12.8%	71.0%	1,869	1,700
営業利益	6,269	6,213	13,711	13,503	-207	-1.5%	74.2%	17,948	18,200
経常利益	6,609	6,531	14,288	13,961	-326	-2.3%	74.3%	18,676	18,800
当期純利益	4,295	4,397	9,262	9,272	+10	+0.1%	74.8%	12,422	12,400